

二上山

香芝市二上山博物館施設の概要



ふたかみ文化センター南側立面図

■施設の概要

複合施設 香芝市文化施設 ふたかみ文化センター
(1F二上山博物館、1・2F市民ホール・会議室 等、3F
市民図書館)

所在地 奈良県香芝市藤山一丁目17番17号

着 工 平成2年(1990)12月4日

竣 工 平成4年(1992)1月31日

開 館 平成4年4月2日

敷地面積 4,820㎡

建築面積 2,528.469㎡

延床面積 8,509.336㎡

構 造 鉄筋コンクリート造地下1階建地上3階建
(一部鉄骨造)

総事業費 48億2,000万円

(上記総額のうち博物館展示にかかわる費用 3億
300万円)

■BF



■博物館施設とおもな共用施設の概要

BF

収 蔵 庫 259㎡ 3.8m (階高)

特別収蔵庫 27㎡ 2.4m (")

資 料 室 56㎡ 2.4m (")

整理作業室 65㎡ 3.8m (")

暗 室 5㎡

倉 庫 9㎡

搬 入 36㎡

荷 解 52㎡

■1F



1F

常設展示室 482㎡ 5.3m (階高)

特別展示室 119㎡ 3.5m (") (兼市民ギャラリー)

倉 庫 46㎡

館 長 室 21㎡

事 務 室 123㎡ (共用)

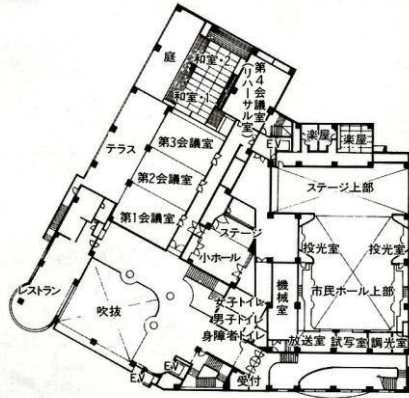
市民ホール 447㎡(客席285㎡ 舞台162㎡)

移動式観覧席310席



ふたかみ文化センター西側立面図

■2F



2F

小ホール 64㎡ 小ホール用椅子50席
 楽屋(3室) 38㎡ 8㎡ 8㎡
 第1会議室 71㎡ 机20 椅子60
 第2会議室 64㎡ //
 第3会議室 67㎡ //
 第4会議室 77㎡ //
 和室 1 18畳
 和室 2 18畳

■3F



3F

市民図書館 図書室(一般書コーナー、児童書コーナー、絵本コーナー、ヤングコーナー、参考図書コーナー、地域資料コーナー、ブラウジングコーナー、雑誌コーナー) 視聴覚室、おしなし室、対面朗読室、会議室、閉架図書(2階・3階・地下)

■MUSEUM/二上山博物館

二上山と3つの石

よみがえる旧石器時代

千数百万年前に噴火した二上山。この二上山が産んだ3つの石(サヌカイト・凝灰岩・金剛砂)との出会い。母なる山「二上山」をあらためて見つめなおしてください。



■歴史の世界といざなう年表
 経過時間を等分した年表で、実際の歴史的時間を知ることができます。



■二上山の旧石器

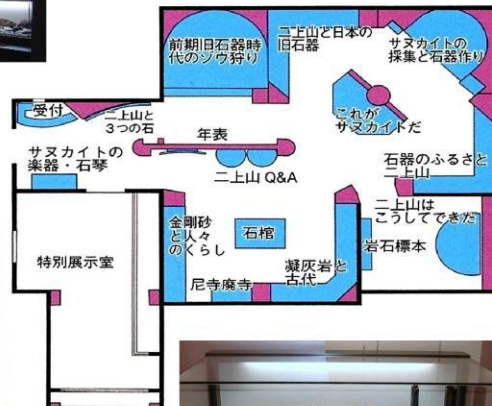
日本の旧石器

二上山は石器のふるさと。数万年前から近畿地方一円に供給された。二上山の旧石器のほか、九州から北海道まで、日本中の旧石器を一室に展示しています。



■二上山 Q&A

モグ君、モグちゃんといっしょにクイズの冒険に出発しよう！



■約30万年前ごろの象(アンチクウスゾウ)狩り

ジオラマは、想像の世界を現実のものに再現してくれます。2台の大型ジオラマでイメージをふくらませてください。



■国宝威奈大村骨蔵器(複製)



■二上山の凝灰岩

“どんづる釜”は、二上山の火砕流によって生成されました。古墳時代にさかのぼる、凝灰岩と人びとのかかわりを紹介。

■金剛砂(ざくろ石)

金剛砂はサンドペーパーの生産など、香芝の地場産業に深くかかわってきました。世界のガーネットも紹介。

二上山

■全国初 旧石器文化を紹介する石の博物館■



奈良県と大阪府の境に接し、左右に金剛・葛城山系と信貴・生駒山系をしたがえ、四季折々、季節の移ろいのなかでその優美な姿を変える二上山。古くは『万葉集』にも詠まれ、万葉の「ふたかみやま」として古代史の舞台となりました。

しかし、それよりもはるか昔…。今から千数百万年前、二上山は大噴火した火山というのが真の姿なのです。その活発な火山活動によって多くの火成岩が分布していますが、なかでもサヌカイト・凝灰岩・金剛砂はその後の人類文化の発展に大きく寄与した岩石、鉱物です。

与した岩石、鉱物です。

二上山は美しい山容によって人びとに深い感銘を与えてきただけでなく、人びとの暮らしのなかで深いかかわりをもってきたのです。

二上山博物館は、この3つの石と人びとの暮らしをテーマに、歴史的風土と自然の特徴を親しみやすく視覚に訴えた博物館です。

■二上山と3つの石■ よみがえる旧石器時代

■サヌカイト

二上山北麓には、数万年前の後期旧石器時代から2千年前の弥生時代に至るサヌカイト製石器の原産地遺跡群が存在します。

サヌカイトは安山岩（あんざんがん）の一種で、1891年にドイツ人の



ナイフ形石器

ツ人のワインシェンク（E. Weinschenk）が香川県の旧国名「讃岐国」（さぬきのくに）にちなんで名づけました。

サヌカイトはガラス質で、打ち欠くと二枚貝の貝殻状に割れて縁に鋭利な刃ができるため、ナイフ形石器などの原材料としてさかんに利用されました。

二上山麓において、後期旧石器時代の遺跡は70ヶ所以上知られています。

1981年から継続的に発掘調査を行う香芝市には、鶴峯荘第1地点遺跡や桜ヶ丘第1地点遺跡など、近畿地方の旧石器時代を代表する遺跡が所在し、瀬戸内技法や国府石器群を研究する上で、第一級の資料を蓄積しています。



鶴峯荘第1地点遺跡出土石器

■凝灰岩

凝灰岩は、火山噴出物が地上や水中に堆積してできた岩石です。県指定天然記念物“どんづる峯”は、二上山の火砕流堆積物が水の影響で形成された地質・地形として



県天然記念物・どんづる峯

知られています。

古墳時代には、藤ノ木古墳（斑鳩町）の石棺、高松塚古墳・キトラ古墳（明日香村）や平野塚穴山古墳（香芝市）の石槨などに利用されました。飛鳥・奈良時代には、寺院や宮殿の礎石や基壇の化粧石、平安時代以降は、燈籠や五輪塔などにも利用されてきました。



平野塚穴山古墳石槨

■金剛砂

金剛砂（ガーネット）は、「石切場火山石」が風化流出して低地に堆積した砂れきの中に含まれています。鉄分が多く



金剛砂（右：顕微鏡写真）

硬度6.5～7.5（ダイヤモンド10）と非常に硬いことから、奈良時代以降、おもに研磨材として利用されてきました。明治時代末から大正時代初めごろ、研磨布紙（サンドペーパー）の産業が始まり、戦時中は軍需物資となって、金剛砂の生産は急速に増大しました。